

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月3日

事業所名 放課後等デイサービス シマエナガ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	0	何対何の割合がわからないので	認可基準上クリアはしているが各指導員の判断基準上との様を考えるかによる。 仮に狭いと考えても現実的に拡張することは消防法やその他法律の兼ね合いがありハードルが高い
	2	職員の配置数は適切である	3	1	0		現在の収支を考えた場合指導員を増やすことは各指導員の収入減につながる事が予想される
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	0	0		施設のリフォーム工事を実施した際にバリアフリー化できる箇所は実施済み。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	2	0		PDCAは研修や会議などの際に話が出ているが、指導員が体感していることは少ないと考えられる。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2	0		シマエナガ開設以来保護者アンケートや意見収集を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1	0		2024年3月に公開を予定している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	0		第三者による評価は受けていないが、保護者や行政に相談や問いかけを行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	0		不定期ではあるが研修等に参加している、。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	2	0		現状の体制を鑑み、高みを目指すことの必要性は感じている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	0		ツールに関して使用率は特定のものを除き高くないよう感じている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	2	0	事前に計画して、話し合うようにしても良い。 時間なかったら、ワークライン等を使って。	理想と現実や指導員はボランティア事業ではないのでよく考える必要があるが提案を無視することは考えていない。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	2	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	2	0		必要性は強く感じている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1	0	集団活動等の状況もワークラインで連絡すると、バラバラの勤務状況でも、共通化が図れるかも？	LINE WORKSの位置づけをどう考えるか対価をどうするか？ 福井県への届け出をした場合勤務時間と県が認めるかまたは常勤換算時にどの様に計算をするかなどハードルが高く感じる。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	0		利用児童の障害特性により一律の集団活動に関し困難を感じる。実現の可能性を考えたときに小集団活動についても方法を考えていきたい。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	1	2	記録帳に記録しているが、これもワークラインなどで記入できますか？	勤務形態上実施が困難で設問通り行くとすれば、19時ごろからの会議となり開始までの時間何をおこなっているか、または指導員が待っていらられるかなどのが考えられる。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	0		記録は行っています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	1	0		見直しの実績はありません。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2	2	0		個別支援計画に基づいて支援の実施を行っています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	0		対象児童なし。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	2	2	0	年間計画 行事予定の交換は、今後の課題かも？	連絡体制は取れるようになっており送迎時間などは保護書より書面でいただくようになっているが、提出がいただけない家庭もあり今後どのように対策をとればよいか思案中。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	0	主治医との連絡体制は？	対象児童なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	0	0		参加している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	0	0		担当相談支援専門員と情報共有している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	0		必要性を感じた場合に行ってきた。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	2		新型コロナやインフルエンザ等の感染症を考え実施していません。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	2	2	0		参加はしたことがあるが、参加することの意義を感じられなかった。 計画開催をされている方のことを考えた際に批判は良くないと思うが、施設内において行うべきことを行わず参加したときに参加か不参加をよく考える必要があると思った。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0		メールや連絡帳を多用している。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	0		行政と相談を行ったことがあるが、学校側が施設よりも上位にあたるため直接よりは学校（担任）と相談することがある。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	2	0		契約時に説明を実施している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	1	0		相談の内容にもよると考える。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	0	0		開催実績あり。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0		第3者委員会合会に使っている。体制図は以前に配布済みである。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	0		ホームページや会報を作っている。
	35	個人情報に十分注意している	4	0	0		注意喚起をしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0		連絡帳やメールを利用している。

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2	1		招待は行っていないが散歩などで地域住民とは挨拶を行っている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	0		ホームページに掲載を予定しています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	2	0	2023年は、ありませんでした	2024年7月までに2回実施を予定しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	0		社内研修や社外研修に参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1	0		対象児童なし。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	0		対象児童なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	0	些細な事でも言い合える雰囲気が大切で仲間意識が足りないと思ってます 共有はしているとは？ ヒヤリハットのとらえ方の共通理解が今一かもしれない？	2024年6月末までに開催予定（不定期開催）